



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

国際ロータリー第2750地区
創立2004年12月8日
東京六本木ロータリークラブ

知り合っ、楽しく学ぶロータリー
東京六本木ロータリークラブ会長

超我の奉仕
国際ロータリークラブ会長

WEEKLY REPORT

2006. 4. 3
No. 31

卓 話

「ドイツ及び日独関係の現在と未来」

駐日ドイツ連邦共和国大使
ヘンリク・シュミーゲロー 氏



今は日本におけるドイツ年です。1999年から2000年にドイツで開催された日本年は大成功で、それをよい手本にしたお蔭で、ドイツ年のイベントは1500件にもなりました。

さて、今日のテーマ「日独の政治」です。私は30年前に来日して以来、ドイツと日本がさまざまな面で近い存在であることに幾度となく感銘を受けました。最近の政治でも驚くほど類似点があります。昨年、小泉総理とシュレーダー首相は内政で困難な状況の中、同じように前進による現状打破を試み、総選挙を行いました。但し類似現象はここまでで、小泉総理が大勝利を収めたのに対し、シュレーダー首相は政権を継続することができませんでした。政策面でも多くの共通点があります。まず経済社会政策、日独で第二次世界大戦後に生まれた経済と社会のモデルは、長い間比類ない進歩と繁栄を両国にもたらしました。輸出大国である日独はグローバル化の圧力に晒されていますが、現在、共に経済成長の兆しが見られます。特に日本では消費、輸出、投資のすべてが伸び、昨年のGDPは2.8%成長しました。ドイツはそれほどではありませんが設備投資は昨年4%増となり、楽観的な見方が広がっています。ドイツの新政権は日本からヒントを得たようで、財政難の中、民間、公的資金を合わせてGDPの3%を研究開発費に当てることにしました。問題についても少子高齢化などの共通項があります。2000年の65歳以上高齢者の総人口に占める割合は両国とも17%ですが、ドイツでは2050年に30%弱に増え、日本でも36%以上になるといわれています。両国は資源の節約のため社会保障制度を見直さねばなりません。技術と社会の革新はそのための唯一の道です。

2番目に外交・安全保障問題です。日本とドイツは国連の第2、第3の分担金拠出国であり、世界の安全と発展に長年大きな責任を担ってきました。多くの国が両国を国連の常任理事国にと期待しています。今、世界の問題の大半は軍事や核抑止力で解決できるものではありません。崩壊国家、大量破壊兵器の拡散、貧困、テロ、環境破壊などの脅威は互いに関連しあっています。こうした問題の解決には多国間主義が不可欠で、その中心は国連でなければなりません。日本とドイツに対して世界は少なからぬ期待を寄せています。

最後に日本でのドイツ年について申し上げます。このように両国に共通の可能性と課題があることから、ドイツ年ではこのテーマを取り上げたイベントが数多く開催されました。行事の多くは日本の方が提案して下さったものです。運営面や財政面でも支援していただきました。このことを特に私はうれしく思っています。



ニコニコBOX報告

水島 裕さん 次の期の用意少しずつしています。宜しく願い致します。

小島 篤さん 春の息吹と共に、水島、篠塚年度の助走がスタートしました。全会員で守り立てましょう。

工藤 一枝さん タイはとても有意義でした。

松木 隆央さん 昨日、娘の7才の誕生日でした。

秋津 壽男さん 「目出たさも 中くらいなり オラが春」

杉本 潤さん 今日は貴重な時間を頂く予定です。

宇佐見千嘉さん 新しい学期が始まり、学校も六本木ロータリーも友人がふえました。

石上 和敬さん 春のおとずれをことほぎ、米山委員会も是非とも宜しく願い致します。

齋藤 明子さん 桜が咲きはじめ、春がやっと来ました。4月1日のお花見がとても楽しみです。

脇若 英治さん 桜の季節でまた女房と娘が来日します。

竹内 和弘さん あまりめでたくはありません。まだ青春です。3/21。

安間百合子さん 花だよりがしきりに聞えてきます。4月1日のお花見、満開でありますように！

岡田 達雄さん 週末に今年初めてセーリングしてきました。

浅田 豊久さん 乃木神社のシダレ桜が満開です。

松本 智さん 桜が咲き始めました。春爛漫。4月1日の花見には花吹雪きでしょうか？

安井 悦子さん 工藤一枝様「きものサロン」を拝見しました。とてもすてきでおもわず「私の友人です！」と騒いでしまいました。

3月27日 合 計 77,000円
累 計 2,448,000円

卓話者の略歴

中村 紘子 様

井口愛子先生最年少の弟子として、三歳から師事。各学生コンクールを制覇ののち、15歳史上最年少で第28回音楽コンクール一位特賞。翌年N響初の世界一周公演の独奏者に抜擢され欧米各地で絶讃される。以来今日に至るまでの47年間、中村紘子の名は日本のピアニストの代名詞となり、国内外での3500回を超える演奏活動に加え、執筆、テレビラジオ出演と、いまや国民的ピアニストと呼ぶにふさわしい存在である。40点以上出しているレコードはすべて桁外れの売れ行きを示し、また数多くの国際コンクールの審査員も歴任。その体験に基づく著書『チャイコフスキー・コンクール』では大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。近年は、浜松国際ピアノコンクール審査委員長、「彩の国さいたま芸術劇場」の音楽監督など、国内外の若手ピアニストの育成や紹介にも務める。

本日のプログラム

「朝青龍シンドロームの時代」

ピアニスト

中村 紘子 様

次回のプログラム

平成18年4月10日

水島 裕 副会長

東京六本木ロータリークラブ

会 長 小竹直隆 幹 事 小島 篤

会報・広報
委 員 長 安井悦子

会報・広報
副 委 員 長 渡辺美智子

〈事務局〉〒106-0032 東京都港区六本木6-10-3 グランドハイアット東京内 TEL 4333-8773 FAX 4333-8774

〈例 会〉毎週月曜日 午後12:30~13:30

〈例会場〉グランドハイアット東京